

総合的な学習の時間の評価の観点(案)

平成28年5月30日
生活・総合的な学習の時間WG
資料3-5

- 総合的な学習の時間の評価については、各学校が自ら設定した観点の趣旨を明らかにした上で、それらの観点のうち、生徒の学習状況に顕著な事項がある場合などにその特徴を記入する等、生徒にどのような資質・能力が身に付いたかを文章で記述することとしている。
- 観点の設定の仕方については、現行では、以下の三つを例示。
(「小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校等における児童生徒の学習評価及び指導要録の改善等について(通知)」(平成22年5月初等中等教育局長通知))
 - ①学習指導要領に定める総合的な学習の時間の目標を踏まえた設定
(「よりよく問題を解決する資質やの能力」「学び方やものの考え方」「主体的、創造的、協同的に取り組む態度」「自己の生き方」)
 - ②「学習方法に関すること」「自分自身に関すること」「他者や社会とのかかわりに関すること」等の視点に沿って各学校において育てようとする資質や能力等を踏まえて設定
 - ③教科との関連を明確にした設定
(総合的な学習の時間の学習活動にかかわる「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」「技能」「知識・理解」)
- 今般の全教科横断的な評価の観点の見直しの方向性を踏まえると、今後総合的な学習の時間の評価について、各学校において教科との関連を明確にした評価の観点を設定する場合には、以下のような趣旨による設定が適当ではないか。

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨 (イメージ)	高等学校	学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている探究することの意義や価値を理解している	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的(協同的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、主体的にさらに高次の課題に取り組もうとしている
	中学校	学習課題(対象)に関する概念的知識を獲得し、よりよい課題解決のために必要な知識や技能を身に付けている探究的な学習のよさを理解している	実社会や実生活の中から問いを見出し、探究的な見方・考え方をを用いて、自分で課題を立て、情報を集め、整理してまとめ、発表している	実社会や実生活の中から問いを見出し、主体的・協働的(協同的)に課題の解決に取り組み、学習したことを自己の生き方に生かし、積極的に次の課題に取り組もうとしている
	小学校			